

活動分野	森に親しむ講座		
タイトル	日本列島の形成～その2 日本各地の成り立ち		
実施日時	平成31年4月4日(月)9時30分～11時30分		
実施場所	千葉市文化センター		
受講者	35名	F I C会員他スタッフ	13名

活動の内容

1. 時間スケール、前回のポイント

2. 日本を形作る原動力～プレートの動きと火山

日本列島は基本的に4枚のプレートのせめぎ合いによって形作られています。海洋プレートの沈み込み方により、大陸プレートには圧縮力がかけたり、引っ張る力がかけたりして、それにより造山運動が起きたり、大地の裂け目(リフトバレー)を作ったりします。またプレートは地下でマグマを生成し、多くの火山を生み出しています。5000年足らずの人類の有史時代では記録が無い様な巨大火山の噴火も多数起こっています。

3. 日本各地の成り立ち

- 北海道----太平洋プレートの斜め沈み込みで、国後、知床、大雪、十勝など雁行に並ぶ火山列があります。アポイ岳には古い時代の大陸衝突によるカンラン岩が露出しています。
- 東北-----太平洋プレートの圧縮力が強く働き、大地が隆起し、その過程で南北に連なる山地と低地が繰り返し現れる地形になっています。その上に多くの火山が連なっています。海面水準の変化によりリアス式海岸が発達しました。
- 関東-----フィリピン海プレートの沈み込みに引き摺られる形で沈降帯になっており、そこを河川が運んだ土砂や火山噴出物が覆い、広い平野ができました。気候変動に伴う海面水準の上下に伴い、海になったり陸になったりを繰り返しています。
- 中部-----伊豆半島の本州への衝突は、現在の日本を形作る一大イベントでした。この衝突により、中部地方に並ぶ多くの山地が隆起し、今も隆起し続けています。フォッサマグナ帯には、箱根、富士、八ヶ岳、黒姫、妙高など多くの火山が生まれ、元々海だったフォッサマグナ帯を埋めて高地に変えました。
- 近畿・中国・四国---フィリピン海プレートの斜め沈み込みにより、多くのシワが寄ったような地形が繰り返し現れています。中央構造線がこの地方を横切りその南北で地質や地形の向きが大きく異なります。琵琶湖は400万年にも及ぶ古代湖で、その間に北へ北へと移動しています。
- 九州・沖縄---南北に連なる6つのも巨大カルデラがあり、まさに火の国です。これはプレートの引っ張る力により生じるカルデラ噴火と呼ばれる超巨大噴火が過去に何回も思ったからです。この力は十万・百万年単位では九州を南北に引き裂くこととなります。沖縄トラフにも同様な力がかかっており、かつての日本海の様に沖縄トラフは拡大しています。

